



リフレクティブジャーナルの早期導入の意義：リフレクティブなスキルの活用状況の比較による検討

中田, 康夫 ; 田村, 由美 ; 澁谷, 幸 ; 平野, 由美 ; 山本, 直美 ; 森下, 昌代 ; 石川, 雄一 ; 津田, 紀子

(Citation)

神戸大学医学部保健学科紀要, 19:27-32

(Issue Date)

2004-03-25

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/00406543>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00406543>



リフレクティブジャーナルの早期導入の意義： リフレクティブなスキルの活用状況の比較による検討

中田 康夫¹, 田村 由美¹, 澁谷 幸², 平野 由美¹,
山本 直美³, 森下 晶代³, 石川 雄一¹, 津田 紀子¹

要 約

本研究は、基礎看護実習 I の実習日誌として学生に課した2002年度および2001年度のリフレクティブジャーナル（以下、RJ）の内容を分析・検討し、RJにおけるリフレクションに必須なスキル（以下、リフレクティブなスキル）の活用状況を明らかにするとともに、リフレクティブなスキルの修得促進のためのRJの早期導入の意義について検討することを目的とした。両年度の相違は、2002年度は基礎看護実習 I に先行して開講している演習に演習日誌としてRJを導入したが、2001年度は演習にRJを導入していないことである。2002年度の実習期間中に毎日提出された64名のRJにおいて、リフレクションの必須スキルが活用されているかどうかについて、各々の定義をもとに詳細に分析・検討を行い、2001年度の58名のそれと比較した。その結果、「自己への気付き」のスキルの活用が、5日間のRJのうち少なくとも1日分のRJにおいてみられた学生の割合は15.5%から34.4%へ増加し、また、「分析」のスキルの活用がRJ上でなされていると判断できた学生の割合は0%だったものが14.1%認められた。一方、「記述・描写」のスキルの活用がRJ上でなされていると判断できた学生は、両年度とも全員であり、相違は認められなかった。以上のことから、RJの早期導入は、学生のリフレクティブなスキルの活用・修得をより促進することが示唆された。したがって、実践的思考能力育成のためにも看護基礎教育においてRJを早期に導入することは意義があると考えられた。

索引用語：リフレクション、リフレクティブなスキル、リフレクティブジャーナル、
実践的思考能力

緒 言

本学基礎看護学講座では、「その人とその人を取り巻く状況を的確に判断し、状況に応じた看護を実践できる能力¹⁾」である実践的思考能力の向上のために、実践的思考能力に必要不可欠であると考えられているリフレクションに必須な5つのスキル（以下、リフレクティブなスキル）の修得に向けた取り組みを行っている。

リフレクションの5つの必須スキルとして、「自己への気付き」「記述・描写」「分析」「統合」「評価」が明らかにされており²⁾、その修得過程は「自己への気付き」を土台として、他の4つのスキルが順に積み上げられるようにして修得されることが示唆されている^{2,3)}。これをもとに、2001年度からそれぞれの実習目標そのものと照らし合わせて、基礎看護実習 I（以下、基礎実習 I）では「自己への気付き」「記述・

1. 神戸大学医学部保健学科
2. 神戸大学大学院医学系研究科博士前期課程
3. 神戸大学大学院医学系研究科博士後期課程

描写」のスキル、基礎看護実習Ⅱ（以下、基礎実習Ⅱ）では「記述・描写」「分析」のスキルを修得することを目標に、実習日誌としてリフレクティブジャーナル（以下、RJ）³⁾を導入し、その効果について確認した⁴⁻⁶⁾。

リフレクションならびにリフレクティブなスキルに関しては、欧米を中心に十数年前から研究が進められており、RJに関する文献⁷⁻¹⁴⁾も数多くみられる。しかし、教育課程のどの時期にRJを導入すればよいかという明白な根拠は皆無である。われわれは、これらのスキルの修得には、より早期からリフレクションの訓練を開始することが望ましいと考え、2002年度からは基礎実習Ⅰ・Ⅱに先行して開講している科目「看護援助技術演習」に、「自己への気付き」「記述・描写」のスキルを修得することを目標に演習日誌としてRJを導入し、指導を行った。

本研究は、2002年度の基礎実習ⅠのRJにおけるスキルの活用状況を分析・検討し、先に報告した2001年度のそれ⁴⁾と比較・検討するとともに、リフレクティブなスキルの修得促進のためのRJの早期導入の意義について検討することを目的とした。

なお、リフレクティブなスキルのうち、本研究で用いた「自己への気付き」「記述・描写」および「分析」のスキルの操作的定義は以下のとおりである。

「自己への気付き」のスキルとは、「自分自身の性格、信念、価値（観）、特性（本質）、強みや弱み（自分の能力の限界）を意識することであり、それは自分自身について知ること」^{2, 3, 15)}と定義した。

「記述・描写」のスキルとは、「経験した最も顕著で重要な事柄や出来事を正確に再現し、それを認める能力を含み、その状況の正確な全体像を提供する。リフレクションにおいて、記述は（あなたが）経験した実践での重要な出来事や問題について再現するスキルであり、良い記述はその状況がはっきりと正確に、かつ全体がわかるように記述されている」^{2, 3, 15)}と定義し

た。

「分析」のスキルとは、「その状況の内容を検討し、そこに存在する知識を明確にし、問題に挑戦し、他の選択を創造したりすることであり、知識の批判的な分析はその知識がどのようにその特定した状況に関連しているかを検討することを含む。何かを分析することは、その構造あるいは構成部分や要素を詳細に検討することで、その本質をよりよく理解したり、部分部分がそれぞれどのように関係して影響しあっているかをよく理解するために行う」^{2, 3, 15)}と定義した。

対象と方法

1. 対象

対象は、2002年度に基礎実習Ⅰを履修し、RJを提出した本学2年生66名のうち、RJを本研究の材料として使用することに同意した64名（97.0%）。

なお、倫理的配慮として、口頭および紙面により本研究の目的や、承諾の可否は成績評価と一切関係ないことなどを説明し、書面をもって承諾の意思を確認した。

2. 方法

1) RJの記述方法に対する教示

実習開始にあたって、学生にリフレクションの背景、定義、目的など^{1, 3)}に関する説明を行った。その上、RJにはその日最も印象に残ったことを、

- ①なぜその場面・状況を選択したのか？
- ②その場面・状況は何をしようとして起こったのか？
- ③そのときの感情はどのようなものであったか？
- ④そのときの判断や自分のとった言動はどうであったか？
- ⑤その場面・状況に必要な知識や技術はどのようなことか？

の5項目にそって記述するように説明した。RJは実習期間中（連続5日間）毎日、その日のう

ちに記録し、翌朝提出することを求めた。RJの記述内容に対しては、実習担当教師がその都度コメントを加え返却するとともに、適宜面接指導を行った。

2) 分析方法

最初に、研究者全員で用語の操作的定義を確認し、各スキルがRJ上にどのように記述されていることが当該スキルの活用にあたるのかを共通理解した。次に、5日間のRJにおいて各スキルの活用があったかどうか研究者全員で検討し、合意を得た。そしてそれを、2001年度の学生の各スキルの活用状況⁴⁾と比較した。

なお、本分析では、各々のスキルの内容^{2, 3, 15)}が一部でも、そして1日分でもRJ上に認められれば、当該スキルの活用がなされていると判断した。

結 果

両年度のスキルの活用状況は、表のとおりである。

「自己への気付き」のスキルの活用がRJ上でなされていると判断できた学生の割合は、2001年度15.5%から2002年度34.4%へと2倍強に増加していた。また、2001年度には認められなかった「分析」のスキルの活用がRJ上でなされていると判断できた学生が、2002年度では14.1%認められた。

一方、「記述・描写」のスキルの活用がRJ上でなされていると判断できた学生は、両年度とも全員であり、相違は認められなかった。

なお、今回取り上げた「自己への気付き」「記述・描写」「分析」のそれぞれのスキルの活用については、各々のスキルの内容をすべて

網羅している深い記述もあれば、その一部の内容のみを満たしている浅い記述もみられるなど、記述の程度には学生個々で差が認められた。

考 察

両年度におけるスキルの活用状況において最も異なる点は、2002年度は2001年度には全くみられなかった「分析」のスキルを活用していた学生が、その水準はいずれも初歩の段階であったが認められたことである。また、「自己への気付き」のスキルを活用していた学生の割合も2倍強に増加していた。両年度で教育・指導内容にほとんど変更がないにもかかわらずこのような結果が認められたのは、実習に先行する科目である演習にRJを導入したことにより、2002年度の学生は2001年度の学生に比べリフレクションの経験が増したためにリフレクションに対する認識が深まり、RJの記述方法に対する慣熟があったことが一因である可能性が推察される。つまり、「分析」および「自己への気付き」のスキルは、「記述・描写」のスキルが向上するとともにその活用・修得が促進されることが示唆されている^{2, 3, 5, 6)}ことから、今回の結果はRJを早期導入したことにより、2002年度は2001年度に比べ「記述・描写」スキル水準が向上したことに伴う結果である可能性が推測される。しかしながら、本研究においては活用された各スキルの水準については両年度における分析・比較を行っていないので、この点については今後の検討課題である。また、個人の思考能力はなくさまざまな要因により影響を受けると考えられるが、この点についても本研究

表 リフレクティブなスキルの活用状況

| ス キ ル | 2002年度 (n=58) | 2001年度 (n=64) |
|-----------|---------------|---------------|
| 「自己への気付き」 | 22名 (34.4%) | 9名 (15.5%) |
| 「記述・描写」 | 64名 (100.0%) | 58名 (100.0%) |
| 「分析」 | 9名 (14.1%) | 0名 (0.0%) |

では検討を行っていない。したがって、今後はリフレクティブなスキルの修得に影響を及ぼすさまざまな要因についても明らかにしていくことが重要であると考ええる。

2001年度では学生の活用が認められなかった「分析」のスキルは、専門家の実践や学術的な活動にとっても重要なスキルであるといわれている³⁾。何かについて批判的に分析するということは、そのことについて強みと弱みの両方を明確にするための肯定的かつ建設的な過程といえ、看護実践における批判的分析の良い例は、患者の状態をアセスメントしたり、手がかりを見出したり、患者の課題（問題）を明確にすることなどが挙げられている³⁾。したがって、このような看護過程の一部を担うと考えられる「分析」のスキルを、学生が早期から実習場面のリフレクションをとおして活用できることは、看護過程の学習を進めていくという点でも意義があると考えられる。

また、2002年度に活用していた学生の割合が増加していた「自己への気付き」のスキルは、リフレクティブな学習や専門的な看護実践にとって必須であり、自分の信念や価値（観）、態度についての知識やそれらが他の人にどう影響しているのかといったことに関する知識は、治療的な関係性の開発やより良い対人関係スキルを開発するためには根幹となることであるといわれている¹⁾。したがって、このスキルを早期から修得することは看護実践の根幹となる対人関係を良好なものにする上でも意義があるといえる。

「記述・描写」のスキルについては、よい記述・描写の能力は、患者について同僚と話し合うときや患者の回復過程をはっきりと正確に記録するために必要であり、リフレクションを用いる上で記述・描写は、実践の中から、重要な出来事を想起してそれに関する事柄を再収集するためのスキルであるといわれている³⁾。看護の専門家として経験の振り返りをとおして学ぶためには、このスキルの早期の修得が重要であると考えられる。

今回の結果から、RJの早期導入は、学生のリフレクティブなスキルの活用・修得をより促進することが示唆された。また、上述したように、RJの早期導入により学生がリフレクティブなスキルを早期に修得することは重要であると考えられた。これらのことから、実践的思考能力育成のためにも看護基礎教育においてRJを早期に導入することは意義があると考えられる。

一方、今回の結果では、RJの導入を早めたにもかかわらず、リフレクションの根幹といわれている「自己への気付き」のスキルを活用した学生の割合が前年度に比べ増加はしたが半分にも満たないことも明らかになった。この原因の1つとして、欧米に比べ、自己の内面や感情を表に出すことを良しとしないわが国の文化的な背景に起因している可能性も考えられるが、この点については今後検討が必要であると考えている。

以上のことから、今後、リフレクティブなスキルの活用ならびに修得を促進する目的でRJを活用するためには、RJへの記述方法に関する説明方法や記述内容に対する教師の指導方法を洗練していくことが重要であると考えられる。また、学生のリフレクションに対する動機づけならびにRJへの取り組みに対する準備状況を高める方法を開発していくことが重要であると考ええる。さらに、RJの分析・検討を継続して進めていき、わが国におけるこれらのスキルの修得過程を明らかにすると同時に、その修得過程に見合った指導方法を開発することによって、実践的思考能力を高めていくことが必要であると考ええる。

結 語

RJを早期導入することにより、リフレクティブなスキルの活用状況に変化が認められるかどうか明らかにするとともに、リフレクティブなスキルの修得促進のためのRJの早期導入の意義について検討した。

1. 前年度と比べ「自己への気付き」のスキルを活用できていた学生の割合が15.5%から34.4%に増加した。
2. 前年度には認められなかった、「分析」のスキルを活用できていた学生が14.1%認められた。
3. RJを早期から導入することによって、リフレクティブなスキルの活用が促進され、それらのスキルの修得が促進される可能性が示唆された。

本研究の一部は、日本看護学教育学会第13回学術集会において発表した。

文 献

1. 田村由美、藤原由佳、中田康夫、他. オックスフォード・ブルックス大学におけるリフレクションを活用した看護教育カリキュラムの背景と概要. *Quality Nursing* 8(4) : 41-47, 2002.
2. Atkins S and Murphy K. Reflection : a review of the literature. *Journal of Advanced Nursing* 18 : 1188-1192, 1993.
3. Burns S and Bulman C. *Reflective practice in nursing : The growth of the professional practitioner*. 2nd ed., London, Blackwell Science. 2000.
4. 中田康夫, 田村由美, 藤原由佳, 他. 基礎看護学実習Iにおけるリフレクティブジャーナル導入の効果: リフレクティブなスキルの活用の有無による検討. *神戸大学医学部保健学科紀要* 18 : 131-136, 2002.
5. 中田康夫, 田村由美, 森下晶代, 他: 実践的思考能力向上のためのリフレクティブなスキルの修得過程: 前向き研究. 第22回日本看護科学学会学術集会講演集 430, 2002.
6. 田村由美, 中田康夫, 森下晶代, 他: 実践的思考能力向上のためのリフレクティブなスキルの修得過程: 後向き研究. 第22回日本看護科学学会学術集会講演集 431, 2002.
7. Riley-Doucent C and Wilson S. A three-step method of self-reflection using reflective journal writing. *Journal of Advanced Nursing* 25 : 964-968, 1997.
8. Callister LC. The use of student journals in nursing education : Making meaning out of clinical experience. *Journal of Nursing Education* 32(4) : 185-186, 1993.
9. Cameron BL and Mitchell AM. Reflective peer journals : Developing authentic nurses. *Journal of Advanced Nursing* 18 : 290-297, 1993.
10. Reed J and Procter S. *Nurse Education : A reflective approach*. London, Edward Arnold. 1993.
11. McAlpine L. Learning to reflect : Using journals as professional conversations. *Adult Learning* 3(4) : 23-24, 1992.
12. Osterman K. Reflective practice : A new agenda for action. *Education and Urban Society* 22(2) : 133-152, 1990.
13. Wellard SJ and Bethune E. Reflective journal writing in nurse education : whose interests does it serve? *Journal of Advanced Nursing* 24 : 1077-1082, 1996.
14. Wong FKY, Kember D, Chung LYF, et al. Assessing the level of student reflection from reflective journals. *Journal of Advanced Nursing* 22 : 48-57, 1995.
15. 田村由美, 中田康夫, 藤原由佳, 他. リフレクションを行うために必要なスキル開発. *Quality Nursing* 8(5) : 51-57, 2002.

The Significance of Early Introduction of Reflective Journal into Nursing Education : A Comparison of Reflective Skills Use Between Two Cohorts of Students

Yasuo Nakata¹, Yumi Tamura¹, Miyuki Shibutani², Yumi Hirano¹,
Naomi Yamamoto³, Akiyo Morishita³, Yuichi Isikawa¹, and Noriko Tsuda¹

ABSTRACT : The purpose of this study was to compare how students actually used necessary skills when writing a reflective journal of clinical placement in 2002 and 2001. In 2002 a reflective journal was introduced into a nursing skills laboratory before basic nursing clinical placement commenced, whereas in 2001 the reflective journal was introduced only at the start of the basic nursing clinical placement. This study explored whether early introduction of a reflective journal was significant to learning reflective skills, as evident in reflective journals of clinical placement. We obtained the reflective journals of 64 students in 2002 and of 58 students in 2001, who submitted them every day during a five day clinical placement period. The reflective journals were analyzed for the use of five reflective skills : “self awareness”, “description”, “analysis”, “synthesis”, and “evaluation”. The findings showed that the skill “self awareness” used by the students increased from 15.5% to 34.4% and the skill “analysis” from 0% to 14.1% between 2001 and 2002. On the other hand, all students used the skill “description” at least in one day’s reflective journal in both years. From the results it was concluded that early introduction of reflective journals as into the nursing skills laboratory promoted the learning of practical use of the skill “self awareness”, “description”, and “analysis”. In conclusion, early introduction of writing reflective journals into basic nursing education may be meaningful for the acquirement of reflective skills, which is thought of as indispensable to clinical thinking abilities.

Key Words : Reflection, Reflective skills, Reflective journal, Clinical thinking abilities

1 . Faculty of Health Sciences, Kobe University School of Medicine

2 . Master Course, Division of Health Sciences, Graduate School of Medicine, Kobe University

3 . Doctoral Course, Division of Health Sciences, Graduate School of Medicine, Kobe University